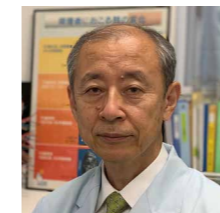




保健会館クリニックの 医師がお答えします!

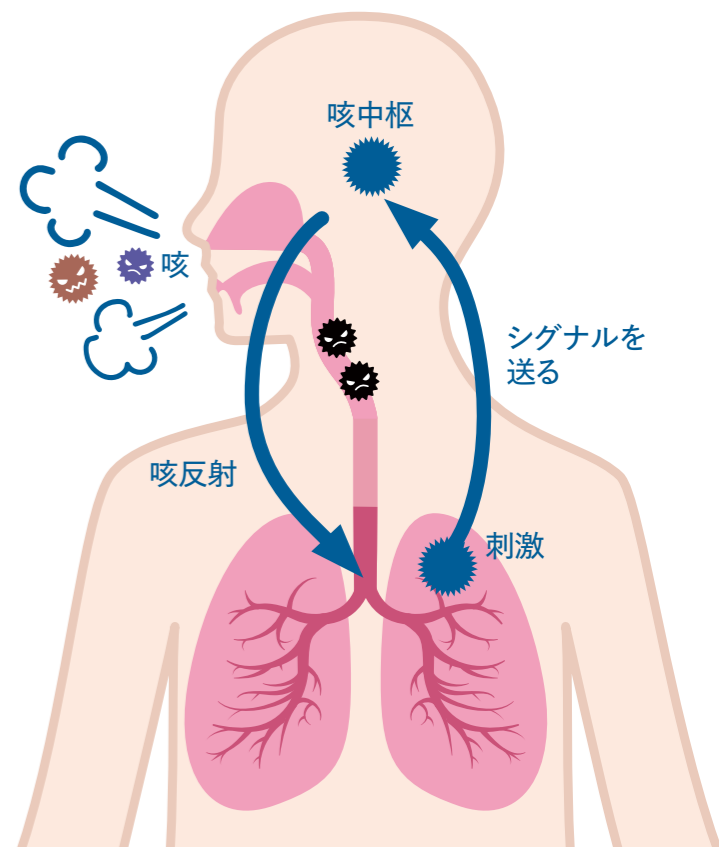
第3回 呼吸器疾患——長引く咳について

恐らく誰もが一度は経験したことがあるであろう「咳」の症状。中でも長引く咳は、体力の消耗や集中力の欠如、夜眠れないなどで生活に支障をきたすことがあるだけでなく、がんや結核などの重大な疾患が隠れている恐れもあり注意が必要です。今号では、本会保健会館クリニック所長であり日本呼吸器学会指導医でもある丸茂一義医師が、咳のメカニズムや原因となる疾患、注意すべき症状などを解説していきます。



【執筆者】
丸茂 一義
まるも かずよし
本会保健会館クリニック所長 肺診断外科外来医師
1979年群馬大学医学部卒業、同年より東京警察病院内科に勤務。42年間の勤務を経て2021年6月より現職。専門は呼吸器内科。日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会指導医、麻酔科標榜医、日本医師会認定産業医、インфекションコントロールドクター。

図1 咳のメカニズム



Q1 咳が起こるのはなぜですか？

咳というのは、基本的に気道に入り込んだ異物を体外に排出させるための運動です。もし気道内に異物があっても当人がそれに気づかなければ、窒息を起こしたり、炎症の原因になったりするので、咳は生物が生き残っていくために必要な基本的な機能の一つといえます。

人間はそのため気道にセンサーを備えており、気道に異変が生じると脳幹部にある咳中枢にシグナルが送られ、咳が起こります(図1)。この回路に異常が起こると、有益な咳ばかりではなく、必要以上の咳が

Q2 咳の原因となる病気について教えてください。

咳が始めてから3週間以内に収まった場合は「急性の咳」と分類されます。しかし、これは治ってからでない診断できないので、困っている時点ではあまり役に立たない分類かもしれません。こうした急性の咳の原因は、ほとんどが感染症(新型コロナウイルスやRSウイルス、百日咳菌の感染症、

あるいは肺炎など)になります。3週間以上咳が続く場合は「遷延性の咳」もしくは「慢性の咳」と分類され、ここに重要な咳の原因疾患が含まれてきます(図2)。

患者は「風邪だろう」と甘く考えている方もいれば、「がんや結核ではないだろうか」と心配して来院される方もいますが、喫煙者を除くと1番多くみられる咳の原因は、気管支ぜんそくならびにその類縁疾患(咳ぜんそくなど)です。2番目に多いのは副鼻腔炎に関連した咳で、この2つが全世界で共通の咳の2大原因です。3番目以降はいろいろな疾患が入

Q3 どんな時に専門医を受診すべきですか？

新型コロナウイルスなどの感染症が否定され、単なる咳止めで止まる咳は、心配ないことが多いですが、止まらない場合は専門医への受診が必要です。1カ月、2カ月といった単位で咳がだんだん悪化する時は要注意。こうしたケースは慢性進行性の疾患、つまりがんや結核を疑う必要があります(図3)。

また、夜中になると出る咳(布団に入った直後に出る咳ではなく、い

Q4 長引く咳ではどのような検査を行いますか？

まずは、咳が出るに至った経過を詳しく聞きます。次に必要となるのは胸部のレントゲン検査です。必要であればC

Tも撮影し、がんや結核など、頻度は少なくとも絶対に見逃してはいけません。画像所見で異常が見つか

Q5 治療はどのように行われるのでしょうか。

原因によって治療法はさまざまです。1番多い気管支ぜんそくや咳ぜんそくでは、吸入ステロイドを中心、長時間作用型の吸入気管支拡張剤(β 2刺激薬、抗コリン薬)とのコンビネーションで治療することが最も多く行われます。

これらの吸入薬は安全性が高く妊婦でも安全に投与でき、またぜんそく以外の咳にはほとんど効果がありません。また、ぜんそくの場合には数日以内に効果を実感できるので、診断を兼ねて投与することが少なくありません。種々ある咳の中で突然の呼吸困難に結び付く可能性のある疾患が気管支ぜんそくであることを考えると、まずこの治療から開始するのは理にかなっていると考えられます。

次に多い副鼻腔炎や慢性気管支炎の治療を考えると、マクロライド剤の長期低用量投与が行われます。これも副作用が比較的少ない治療で、耳鼻科領域でもよく使用されています。

図2 咳の持続時間と原因

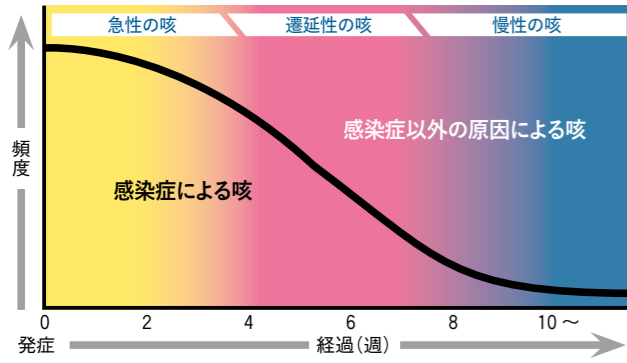


図3 東京都福祉保健局リーフレット「長引くせきは赤信号」



<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/kekaku/kekakukankoubutu.html>